

**【Daigas エナジー最大規模】大日本印刷株式会社と同社泉崎工場の
敷地を活用した 10MW 級オンサイト PPA サービスの契約締結について
～温室効果ガス排出量を年間約 6,300 トン削減～**

大阪ガス株式会社（代表取締役社長 CEO：藤原 正隆、本社：大阪市中央区）の 100%子会社の Daigas エナジー株式会社（代表取締役社長：福谷 博善、本社：大阪市中央区、以下「Daigas エナジー」）は、大日本印刷株式会社（代表取締役社長：北島 義斉、本社：東京都新宿区、以下「DNP」）と、同社の泉崎工場（福島県）の敷地を活用した、10MW 級の「D-Solar^{※1}」契約を新たに締結しました。本件は Daigas エナジーが開発した太陽光発電システムにおいて最大規模の D-Solar 契約となり、温室効果ガス排出量の削減量は年間約 6,300 トンを見込みます。

近年、企業における脱炭素化の取り組みが加速する中で、再生可能エネルギーの導入ニーズが高まっています。特に、温室効果ガス排出削減への対応として、再エネ電力の自家消費型モデルが注目されています。今回設置する太陽光発電システムは、Daigas エナジーが DNP の泉崎工場の敷地を活用し、太陽光パネル 10,813kW の設置を予定しています。発電した再生可能エネルギー100%の電力は DNP に供給・販売し、DNP は購入した電力を泉崎工場で利用することで、年間温室効果ガス排出削減量は約 6,332 トンを見込んでおります。DNP は「DNP グループ環境ビジョン 2050」において、「脱炭素社会(気候変動の緩和と適応)」に向け、2050 年までに拠点での事業活動に伴う GHG(温室効果ガス)排出量実質ゼロを掲げており、今回のシステムは温室効果ガス排出削減に寄与します。

本件は 2027 年 6 月から運転開始に向けて開発を進めており、自営線により電力を供給するシステムとなります。また、Daigas エナジーが土地造成工事や行政対応を含めて開発をおこなっています。

「D-Solar」は自営線やソーラーカーポート等も活用し、お客さまの状況に応じた最適な太陽光発電システムを提供するサービスです。「D-Solar」の 2026 年 9 月末時点の契約実績は 120MW 超となります。

Daigas グループは、2025 年 2 月に発表した「エネルギートランジション 2050^{※2}」のもと、これまでの再エネ電源の開発・運用実績を活かし、本件をはじめとするコーポレート PPA の取り組みを推進しております。

Daigas エナジーは、Decarbonization（低・脱炭素化）、Decentralization（分散化）、Digitalization（デジタル化）の 3 つの D を軸としたサービス「D-Lineup」を中心に、エ

エネルギー会社の強みを活かした低・脱炭素ソリューションを提供しています。

今後も Daigas グループ一丸となり、お客さまの脱炭素戦略を支援するとともに、再エネ電源の自立化に貢献し、カーボンニュートラル社会の実現に向けた課題の解決に努めてまいります。

※1 「D-Solar」 についてはこちら

<https://ene.osakagas.co.jp/product/dsolar/index.html>

※2 「エネルギートランジション 2050」 についてはこちら

https://www.daigasgroup.com/sustainability/valuecreation/carbon_neutral_vision.html

以上